

令和7年度事業評価に関する提言への対応

<p>事業名</p>	<p>「学ぶ楽しさ日本一」を目指した教育の実施に関する事業</p>
<p>委員会評価</p>	<p>おおむね適正である</p> <p>本事業は「学ぶ楽しさ日本一」を目指し、多様な学びの機会を提供することを通じて、子どもたちの主体的な成長を支えることを目的としている。</p> <p>市民や現場のニーズ把握に一定の努力が見られる一方、その声の反映や双方向の対話がやや不十分であり、今後の改善の余地があると考えられる。また、各種事業の展開にあたり、地域性や対象によって取組の偏りが見られることも課題である。</p> <p>事業には独自の工夫や意欲的な取り組みも見られたが、費用対効果や成果の「見える化」、継続的な効果検証の仕組みについては、さらに明確にしていく必要がある。</p> <p>計画やビジョンとの整合性については、市の方向性との一致は一定程度確認されたものの、抽象的な表現が多く、市民への理解・共感を得るためには具体性のある説明が求められる。</p> <p>全体として、本事業は教育を軸にした地域づくりへの可能性を秘めており、今後は市民とともに学びをつくる姿勢と、成果の検証・改善を重ねる柔軟な運営を期待する。</p>
<p>事業に係る提言</p>	<p>改善し継続する</p> <p>本事業は「学ぶ楽しさ日本一」を掲げ、地域資源や多様な学びの機会を活かす点で意欲的な取り組みが進められている一方、いくつかの課題や改善の余地も見受けられる。</p> <p>まず、取り組みの成果をより客観的に可視化し、継続的に評価・検証する仕組みの構築が求められる。また、地域や学校間で事業の浸透度や熱量に差があることから、全体のバランスを意識した支援体制と横のつながりを強化する必要がある。さらに、教育現場の負担軽減と、地域住民や保護者の理解と協力を得るためにも、事業の意義や成果を「見える化」し、発信することが重要である。</p> <p>子どもたちの自己肯定感や探究心を育むための学びを継続的に展開していくには、単年度の施策にとどまらず、将来を見据えた中長期的な視点での計画と柔軟な改善が求められる。</p> <p>教育の質の向上と地域全体で支える教育環境づくりの両立に向けて、今後も実効性のある工夫と対話を重ねてもらいたい。</p>

令和7年度から令和11年度までの第4期教育振興基本計画において基本理念を「学ぶ楽しさ日本一」とし、「生涯を通じて学びのいぶきがみなぎるまちづくり」をサブテーマとして、すべての市民が生涯を通じてどんなときでも楽しく学ぶ機会を持ち、心豊かな日々を送れるよう、多くの学びの場を整えていくこととしている。

こうした考え方を基本としつつ、提言を踏まえ以下の点に取り組んでいく。

1) 取り組み成果の可視化及び継続的な評価・検証の仕組み構築について

前述の第4期教育振興基本計画では、「学ぶ楽しさ日本一」を達成するために、3つの基本方針と、16の基本的方向を設け、それぞれの項目ごとに計画期間終期における成果指標を設定している。

また、これとは別に地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、教育委員会における事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を実施し、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しており、これについても新たな教育振興基本計画の施策に基づいた点検・評価の報告書を毎年度作成し、公表していく。

これらの仕組みを適切に運用することで、それぞれの事業目的や成果を可視化し、市民への周知を図っていく。

こうした取り組みに加え、学校が抱えるさまざまな課題に対し、各校が独自の切り口で主体的に課題解決を図るため、「スクールイノベーション事業」に取り組んでいる。

スクールイノベーション事業では、それぞれの取り組みについて学校内部で完結させるのではなく、教育委員への情報提供をはじめ、市内小中学校関係者などにも周知するほか、さんさんネットで放映するなど周知に努めてきたところ、今後、さらに市民へ広く周知していくことで、取り組み内容やめざすべき方向性を市民全体で共有するため、学校を通じた情報発信や広報紙、SNSなどの活用を図っていく。

このように積極的に情報発信をしていくことで地域住民や保護者など広く市民の理解を受けながら、「学ぶ楽しさ日本一」の実現を図っていく。

執行部回答

2) 教育現場の負担軽減と地域との協働について

本市では「能動的に学び続ける子」の育成のため、授業改革に取り組んでいる。さらに市内先進校の取り組みを他の学校へ広げていくため、学校間での授業研究などを通じ横展開、横連携を図っている。また、授業改革に加えて校務支援システムの整備や学校徴収金システムの確立などの校務改革をひとつのパッケージで進めることで教職員が子どもたちと向き合う時間の確保に努めていく。

○令和8年度における主な取り組み

<令和8年度南あわじ市の教育方針（案）における重点取組及び主な令和8年度予算（案）>

1. 1人1人が輝く、魅力ある学校づくり
 - ・スクールイノベーション事業 265万円
 - ・読書活動推進事業 1,509万円
 - ・不登校対策・心の相談の充実 2,104万円
 - ・学ぶ楽しさ支援センター運営事業 3,844万円
 - ・教育ICT環境整備事業 2億8,245万円 など
2. 小中学校の連携と一貫教育
3. 中学校部活動の地域展開MINA・KATSU
 - ・部活動地域展開推進事業 1,240万円
4. 地域の絆を深め、未来を育む遊び場